



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30-13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
	電話	0235 (2) 5775

会長	三井	健助
幹事	山口	篤之郎
会報委員	藤田	光一
	新田	幸雄
	鷺安	定助
	安嶺	光吉

No., 981

1978.11.7 (火)(晴)

No., 18

ウィンター紹介

山本 正君 合成繊維織物 — 勝山R.C (元当R.C会員)
菅原 幸雄君 プレハブ建築 — 鶴岡西R.C

◆ ゲスト紹介

米山奨学生 蔡 慶隆君
交換学生 プレントン君

会長・幹事報告

1. プレントン君に今月の小遣を贈ります。
2. 本日の理事会に於て次のことを決議しました。

REACH OUT...

手をさし伸べよう...

① 来る14日午後3時より山王プラザに於て第3回クラブ協議会開催。これは来る19日開催のインターシター・ゼネラル・フォーラム（I.C.G.F）の予習会として、その形式で行うので特に各委員長の外、新しい会員の多数の参加をお願いします。

② 来る28日（火）の例会は次期役員決定のため総会に切替えます。

③ 12月19日（火）の例会はクリスマス家族会のため、時間を夕方に変更します。

1. 会報到着 新庄R.C

2. R.I 東京大会ホストクラブより会計報告と協力に対する御礼状が参りました。

◆ 山本 正君の挨拶

1年半振りに、久し振りに鶴岡を訪ね、お天気はよし、先づ駅に降りると駅は新築中で、その近くにはダイエーさんが出来まして鶴岡が益々発展していると云う感じがいたしました。

私が参りました勝山は鶴岡のようにこんな広いところではなく、山の中の谷間のようなところで、柴田勝家が戦に勝ったことから「勝山」と名付けられた城下町で、織物業が多く織物に関係のない人はいないと云った町です。

私の所属している勝山R.Cは、会員40数名のこじんまりしたR.Cで、私は会報を担当して居ります。鶴岡R.Cの会報は素晴らしく、そのように思っても、いざやって見ると仲々難かしくうまくゆかないものです。

勝山の近くには永平寺もあり、御関係の方も多いかと存じますがどうぞ向うにおいでの際はお立ち寄り下さい。

◆ 会員スピーチ

「青少年とボランティア」

小池 繁治 君

青少年を語る時、今接している青少年は、我々が経験した社会情勢と云うか環境とかなり違った中で育って来ている。今の青少年に強制疎開とか空襲とか、外食券食堂とか等と語っても全く意味が通じない。だからと云って青少年と我々が全く違うんだろうかと云う疑問も持っていた。

今から5～6年前にセミナーが流行して、私もその一つに参加し、新入社員の入社について教わったことがあります。その中に「新入社員は外国人と見なければならぬ」と云われたことを記憶しています。こっちの云っていることが完全にじっくり意が通じないと云うことだと思えます。果して管理者と管理されるものが理解し合えないものだろうかとの疑問も持ったことがあります。

その当時丁度「断絶の時代」と言う言葉が流行し、これはドラッカーでしたか、その後ハーマンカーンが「21世紀は日本の世紀」だと非常に日本の経済力の進歩が未来に向ってバラ色のように云われた時代のような記憶があります。

それじゃ、本当に青少年に私達が接するとき果して、そのようなものだろうかと言う疑問を私はもっていました。私共のおかし易い過ちの一つに、ある程度の情報があって、それを前提としてそれを眺めると言うのはおかしいのではないか、と云うのは今の青少年と我々とはズレがある、それは確かにズレはあるが、だからと云ってズレがあることを大前提として、青少年とつき合ってきたのではないだろうかと言う疑問をもっていました。

之を自然科学の方に置きかえて見ると理解しやすいと思うのですが、人間が住んでいて、太陽が東から出て西に沈むと云うことを大前提にもっている。それをガレリオガリレが地球が廻るんだと云った時、彼を狂人としか思わなかった。そういう過ちを私共は青少年のつき合っている間にもって来たのではないかとの疑問がある。

人間の本質と云うものは、その簡単に変わるものではないと云う気持も片方にはある。本当に今の若い人達と語るとき、人間というものはさっぱり変わっていないのではないかと思われてならない。

人間がぎりぎりの極限に於かれた場合と云うのは火野草平の「麦と兵隊」と云う本を読まれたことがあると思いますが、彼は従軍記者として戦地にあったわけですが、その時に捕虜についてみせしめを見た。その時の立場としてそれを救うことが出来ない。又道端で母子が食べ物がなく悲惨な姿を見てもそれを助けることが出来ない。そのとき彼はどうしたか、見てはいけないものは見ないことにした。その見てはいけないと云うのがその時に於ける人間としての最低の抵抗ではなかったかと思う。見てしまうとどうしょうもないその立場上、彼は後で見てはいけないものを見ないでよかったと云っている。人間の本質と云うものはやはりそこにあるのではないだろうかと思えます。青少年の今の行動等理解出来ないものは確かにある。しかし人間の一面には環境によって変わるものではあるが、人間の本質とは仲々変らないものだと言う一面もあるものだと思っています。

その当時の社会環境は高度成長時代で「猛烈社員」がもてはやされた時代です。大先輩の佐藤伊和治君がある新聞社のアンケートに答えて、「猛烈社員についてどう思うか」との質問に先輩は言下に「軽蔑します」と云われた。私共も大いに考えなければならぬものがあるように思えてなりません。

青少年のおかれた環境と我々のおかれた環境とは違うことははっきり違っている。青少年との差があるとすれば青少年のおかれた環境によっては人間もっている情緒性と云ったものが少し足りないのではないか。技術進歩だけが進歩であって、精神的な文化等人間生活を豊かにするためには余り役立たないと云った世相であったので、その世代に生活したから技術革新のみが人間の幸福につながる進歩であって、精神的情緒がなおざりにされた時代に育ったと云う、これがなれ合いでなかったかと思えます。

別に技術が悪いのではなく、海を見たらエネルギーに替えるだけが人間の進歩につながり「ひねもすのたりかたかな」的な見方は人間進歩につながらない、と云ったような考え方があったのではないだろうか。もう一つコミュニケーションの少ない時代ではなかったか。人間のコミュニケーションを大切にす時代が来なければならないのではないだろうか。人間性と云うか、人間の精神を支える知恵は学問的なもので捉えるのではなく、毎日のコミュニケーションの中で捉えるもの、その大切さを青少年と一緒に考えて行く時代ではないか。

精神文化の高さは現代より江戸時代の人の方が非常に高度なと云うか、現代人が忘れた人間性というか、洞察力と云うか観察力の見事さは江戸時代の人の方が多かったように思います。彼等の作った川柳やいろはかるたの諺とか見ますと、やはり人間の機微にふれた生活の知恵等は現代人よりはるかに優れていたと思います。現代人の知識よりは寧ろ学問的な知恵をもっていない時代の人の方が寧ろ人間とのかかわり合いと云ったようなものの大切さを知っていたのではないでしょう。

ボランティアを考えて見ると辞書には奉仕と云った言葉は見当らない。有志者・篤志家、自由にやること、自由意志で進んでやること等とある。そうするとボランティアの考え方は寧ろ上から命令されて育って来た我々より今の世代に育った青少年の方が自由意志をもって自発的意志をもった者の方がずっと多くもっているのではないかと思う。

ボランティアとはなんなのだろう。余り大きさに考えると善のおしつけ見たいにもなるし、難しいものようでもある。老人に席をゆづるとか、道端に落ちていたゴミを拾う等は単なる親切であって、ボランティアと云うべきものでもなさそうだ。それでは人間の中に本来ボランティアがないのかと云うと、やはり本来持ち合わせている。しかしその時代とか環境によってスムーズに表に出て来ない時代を作ってしまった罪はこちらにあるのではなからうか、と云うような気がする。

ここに R.C とボランティアと云うものと結び合わせてと云うか、青少年に対応する場合、その生活を見つめて行くことと云う態度が必要であって、そのことがボランティアでないだろうか。対応する場合にも私共青少年はと云ってその中に飛び込んで行って行動することも大切なことであるが、もう一つは第三者的に客観的に批判するものでもなく、対応だと思ふ、コミュニケーションがなければならぬ。出来るだけ率先して機会を利用して行きたい。

この間、日本経済新聞に「広がる輪ボランティア」と云う記事があったので参考までに次に読んでこの責を終りたい。

活動するには4条件が必要

関東学院大学教授 吉沢英子さんの話

ボランティアとして活動するには4つの条件が必要である。まず自由であること。現在子育て中とか病人をかかえた家庭などは、奉仕に費やす時間の工面が難しい。次にゆとりがあること。多少経済的、精神的にゆとりがない限り、

他人のためにがんばってみても結局はざ折しやすい。

3番目は個の確立、つまり、お互いの立場を了解しつつ助け合うという相互扶助観を確立する必要がある。4番目は不正とか不合理に挑戦するくらいの問題意識を持っていること。住みよい社会の実現は行政サービスだけでは十分とはいえない。ボランティア活動はそのひずみを埋める一手段であり当然従事する人は厳しく社会を見ずえる目を持ちたい。

しかし日本には欧米のような個人主義が確立していないだけに、相手の立場を尊重しながらの助け合いはなかなか難しいし、なぜボランティア活動を行うかという動機づけもあいまいだ。その是正がこれからの課題だろう。ごみ拾いや、座席をお年寄りに譲る行為は単なる親切、善行に過ぎないのかもしれないが、私は広義のボランティア活動と考へたい。他人へのちょっとした思いやりがボランティア活動への目を開ききっかけとなったら幸いである。

亡き会長を偲ぶ（その3 池内方平5代目会長）

早坂源四郎君

池内君は広義で僕と同業で、戦前よりの知己でした。仲々の理論家で、僕の会長時代、社会奉仕のプログラムで、電話で1時間近く議論した記憶がある。勿輪クラブ会長として、僕は積極的奉仕プログラムを強く主張したのですが、彼の論旨は、ロータリーはあくまで個人奉仕が主体である可きで、クラブとしてあまりプロジェクトを追いかける事は邪道であると言う意見です。当時僕は決議23-34等もあまり勉強して居らず、彼がクールな頭脳で、ロータリーの本則をある程度捕捉していた事を、後日改めて認識し敬意を表している次第です。然し僕がガバナーノミニの指名を受けた際に、僕の健康を心配し極力反対したのは彼であり、この点では彼の予想が見事外れていたと云わねばなりません。

何はともあれ、小花、三浦、池内の3元会長は鶴岡クラブの基礎を築かれた方々であり、個性の強い先輩ロータリアンでもありましたので、稽古台に精々ぶつからせて頂きました。3君を失った事は真に淋しい限りです。

委員会報告

◎青少年委員会 小学生宿泊訓練について

三井 徹君

去る4日-5日、金蜂少年自然の家であの施設を活用し所員の協力で市内1小-5小の生徒47名に対し宿泊訓練を行いました。そのプログラムは非常にユニークなもので、昨年菅原辰吉君の着想で開催し、校長会に於ても学校側も大好評だったので今年も引き続き開催しました。

結果は小供達は非常に喜び、忘れ得ない思い出として印象に残るでしょう。小供達にロータリーを知ってもらいたいと言う希望もあったので、私や菅原辰吉君、安藤定助君が夫々ロータリーとその趣旨について判り易く話をし又参加証に記念写真を贈り、記念にしてやりました。

非常に嬉しかったことはR.A.Cの五十嵐会長初め3名、I.C各校2名、

計6名、I.C.O.Bの木村、原田君達が非常に熱心に協力して呉れたことでした。第1夜就寝後に行った翌日の打ち合せや、懇談会も有意義で且つ大変楽しいものでした。東京大会の際、日本橋R.Cの会員にもらった「美しい箸の持ち方」と云うパンフレットを配ると云った変わったこともやりました。今後更にロータリアンのより多くの参加があればなお盛り上るものと思いました。

◎会員及び奥様誕生祝

親睦活動委員会

- 会員誕生 風間慶三君、中村富昭君、佐藤衛君、鈴木善作君
丹下誠四郎君、藤川享胤君
- 奥様誕生 阿部清(襄)様、早坂さえ(源四郎)様、小松久子様、菅原和子様
菅美千代様、丹下せい子様、鷺田玲子様

◎年間皆出席表彰

出席委員会

- 16年間皆出席 新穂光一郎君
- 10月125%出席 8名
早坂(源)君、川村君、小池君、三井(徹)君、三井(健)君、西海君、迎田君、山口君
- 10月100%出席 48名
皆川君、阿部(与)君、阿部(襄)君、安藤君、張君、飯白君、石井君、石黒君、五十嵐(三)君、石川君、市川君、板垣(俊)君、玉城君、風間君、黒谷君、高橋(耕)君、小松君、嶺岸君、三井(賢)君、森田君、中村君、中江君、中野(重)君、中野(清)君、小野寺君、佐藤(忠)君、佐藤(順)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、鷺田君、新穂君、内山君、丹下君、菅君、鈴木(善)君、鈴木(弥)君、高橋(正)君、高橋(良)君、菅原君、律田君、手塚君、富樫君、上野君、金沢君、吉野君、野村君、高岸君、宮沢君。

SMILE BOX

誕生日おめでとう 誕生祝受領者会員
年間皆出席おめでとう 受賞者会員

出席報告

本日の出席	会員数	71名	欠席者	早坂(徳)君、半田君、海東君、玉城君、黒谷君、三浦君、中村君、中野(清)君、中野(重)君、鷺田君、斎藤(栄)君、板垣(広)君、佐藤(伊)君、菅君、鈴木(善)君、佐藤(順)君、佐藤(友)君、佐藤(正)君、鈴木(弥)君、高橋(良)君、手塚君、上野君、諸橋君、高岸君、宮沢君
	出席数	46名		
	出席率	64.79%		
前回出席の席	前回出席率	84.51%	メークアップ	佐藤(忠)君一酒田R.C 五十嵐(三)君、中村君、諸橋君、金沢君、佐藤(元)君一鶴岡西R.C
	修正出席数	66名		
	確定出席率	92.96%		